

－ 縁足旅行社、夢は大きい小さな会社 －



縁足旅行社は、平成18年3月に営業開始した生まれてまだ日の浅い会社です。有限会社ですが、単なる旅行代理店ではなく国内募集旅行を主催できる第二種旅行業です。資本金は1千万、全国旅行業協会に百万円を超す会費を納め正会員となり、形だけは大手の旅行会社にひけをとりません。(あくまでも形だけの話ですが、)

私は、縁足旅行社の代表で伏屋広継と申します。昭和25年12月生まれの寅年です。家族は、息子が二人(社会人です)と女房が一人います。

縁足旅行社を設立したのは、バス旅行の楽しさを多くの方に味わっていただくと思ったからです。小学生の頃の遠足を振り返ると、バス車内で騒ぎはしゃいで歌ったことや川原で食べたお握りのうまかったことが懐かしく思い出されます。ご近所の大人も子供も皆そろってバスでお花見ということもありました。気心の知れた友達や仲間と気兼ねなく出かけるのが旅行の大きな楽しみです。この“**親しい仲間**”と出かける、又は親しい仲間という雰囲気になる、のが娯楽としての旅行の大きな要素です。

もちろん一人での旅行も良いのですが、一人旅には気持ちの張りが要ります。私も20代の頃から国内海外へ一人旅を重ねました、それが高じて(旅行ではありませんが)青年海外協力隊にも行ってきました。50代になってからも、一人でお寺参りの旅に出ます。四国のお遍路のように遠出のときは、テントを持って野宿もしますが、一人旅は旅の娯楽の概念からは少し離れています。

何といっても、気軽に楽しいのは親しい仲間、夫婦、家族で行く旅行、それも住まいの近くから利用できる“**バス旅行**”が一番です。バス旅行を提供する会社は沢山あります。団体の貸切バス旅行は別として、チラシやパンフレットをみて参加を申し込むバス旅行(募集型の旅行といいます)では、運良く案内上手な添乗員に巡りあわない限り、バスは一つの立寄り場所から次の場所までの移動手段に過ぎないことがよくあります。大手のバス旅行専門会社と中小の旅行会社での旅行業務に従事した私の経験から言いますと、バス車内で過ごす時間が愉しく工夫されているツアーはそう多くありません。特に見知らぬ方が乗り合わせる募集型のバス旅行では、添乗員は余計な口はききませんし、お客様は仲間同士で固まっていることになり勝ちです。子供の頃の遠足旅行のような楽しさを何とか募集型のバス旅行に入れられないかと考えたのが、**縁足旅行**です。

“縁足旅行”は、縁足旅行社が募集する旅行のブランド名で、車内で唱歌、懐メロを歌ったりするバス旅行です。縁足には、**ご縁(えん)を足(ふや)す**の意味があります。ツアーの性格やお客様の世代にあわせ、歌やお話を考え車内を愉しく過ごせるよう工夫します。お客様によりお好みが異なるので、うっとうしくならないように心がけます。もう一つの工夫は、“**ひらがな名札**”です。見知らぬ方でも声をかけ易く、親しみ易くする名札です。「あの～」、「もし、もし」、「お宅は」、「あなたは、」などというより、名前で呼びかけると話がスムーズです。「鈴木とら」さんが、その日だけ「さゆり」ちゃんになっても構いません。こうして知らぬ同士が話しかけたり、呼び合ったりしてほんわかした気持ちになるのが縁足旅行の理想です。もしかするとすっかり打ち解けて、長くおつきあいする良いお友達ができるかもしれません。お金より何よりも大切な宝物になる人のことを“**ひと財産**”といいます(笑)。縁足旅行を通じてたくさんの“ひと財産”を得られたら、嬉しいことです。

縁足旅行は多くのお客様にご利用願いたいと思いますが、中でも是非ご参加いただきたいのはお一人住まいの方です。お一人住まいというより、すぐ近くに一緒に出かけるお仲間がいらっしゃらない方という方が正確でしょう。たとえ近くにお仲間がいらっしゃらなくとも、どうぞお一人でお出かけ下さい、縁足旅行の車内で一緒にうたいましょう。毎日の生活を離れ、外の空気を吸うと身体も心もリフレッシュし若返ります。うまくすると“ひと財産”も増えます。私の亡くなった母は、田舎に住み歌も旅行も好きだったのですが独りになってからは一度も旅行に行くことはありませんでした、私は亡くなるまで何一つしてやれず後ろめたい気が残ります、その気持ちがこの旅行社を作った個人的な理由の一つでもあります。どうぞお一人でも腰を重くせず、ヨイショと立ち上がってお出かけ下さい、歓迎します。

縁足旅行社は、生まれたばかりの会社ですが、いずれは多くの方に縁足旅行を楽しんで頂くことを夢見ています。今は未だ小さな会社ですが、徐々にご案内できるツアーを増やし皆様に楽しんで頂けるよう努めます。

お気に入りのツアーがございましたらご参加くださいますよう、お待ち申し上げます。

